

PROFILE

金沢医科大学卒業。同大学病院で内部分科、循環器内科医として勤務後、上京し、美容皮膚科医に転向。著名な美容クリニックでの院長などを歴任し、'03年に「あおいクリニック銀座」を設立。国際学会にも数多く出席し、最先端の美容医療技術をもとに、オリジナル施術の数々を発案している。

女性
医師の
場合

秒針のある時計からない時計へ。そこには私自身の医師としての転機もありました
中野あおい先生
美容皮膚科医・あおいクリニック銀座院長



美を追求する皮膚科医としてアンテナを張る意識も刺激
「タンクフランセーズ」カルティエ

内科医から美容皮膚科へと転身する際、秒針の見やすさを重視していたロレックスから、カルティエのダイヤモンド付き「タンクフランセーズ」に時計もチェンジ。日々進化する医学界に勉強はつづきものですが、これからは美のトレンドにも敏感にアンテナを張る必要性を感じて、時計とは、常に初心を忘れないための道具でもありますね。



美しく装って
出かけることも
女性には必要なこと

お母様がブッシュロン好きだったことも影響して、3年ほど前に「パーティ」用の時計を新調する際に「リフレ」を選び、ダイヤモンドが華やか。

美容皮膚科医の第一人者である中野先生は、医師としての第一歩を大学病院の内科からスタートさせました。医大の5年生で臨床実習を始めるにあたり、医師であったお父様から贈られたのが、コンビのロレックス。「命と向き合う内科医には、脈を測るのに秒針の時計が必要品、初心を忘れずに患者さんに向き合いなさい」という教えが込められていました。いかに全身全霊を尽くしても、医者としての常は常に自問自答を繰り返して使っていたロレックスは、私のお守りのような存在でもありました」

上京し、美容皮膚科医に転向、同時に時計もカルティエの「タンクフランセーズ」に替えたのだそう。「医療の世界には進歩が速く、常に研究と勉強がつきものです。美容皮膚科はそれに加え、美意識をアップデートし続ける努力も必要になる、と思ったのです。秒針に別れを告げる代わりに、ダイヤモンドで美のアンテナも刺激して、こうと決意しました」

医師とは、生肌を患者さんへ与けるもの、元日か休みをとらなかつたお祖父様、ロレックスで道を示してくれたお父様とともに医師の志を、その背中を見つづき、新しい美容医療の道を切り拓く決意をされた中野先生の切実な日々は続くのです。